

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105784
法人名	医療法人 北吉田診療所
事業所名	グループホーム しょうせきあいあい
所在地	愛媛県松山市南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成24年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所では、看護師の24時間常駐と、主治医の毎日行われる往診により、医療体制を充実させています。また、終身介護を前提とした運営を行っており、希望される場合は看取りも行います。細めにバイタル測定を行い、栄養バランスに気を配った食事を提供するなど、利用者一人ひとりの日々の健康管理を徹底し、利用者やご家族に安心をお届けできる施設を目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●ご家族は、事業所を「最期まで居られる場所」として、利用を希望される方がほとんどである。入居時に口から「食べられなくなった時にどうするか」ということについて、選択肢を挙げて説明し、時期が来た場合にはご家族に決めていただくように伝えている。身体の状態変化時には、医師である法人理事長から直接ご家族に連絡して、今後の治療方針やケア等について話し合っておられる。</p> <p>●併設の小規模多機能事業所と合同で会議を開催されており、民生委員、前公民館長、前校長や地域の方、ご家族、他事業所の職員も参加して下さっている。会議の案内状は、すべての家族・地域の方を含めて、毎回100通ほどの方に郵送されている。参加することを迷っているご家族には、議題等を伝えて関心を持っていただき、足を運んでいただけるよう働きかけておられる。会議では、毎回、医師である法人理事長が、家庭で役立つ「医療講話」を行っておられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

サービス向上への3ステップ

事業所名 グループホーム しょうせきあいあい

(ユニット名) あいちゃん

記入者(管理者)
氏名 多田 翔太

評価完了日 平成24年 2 月 19 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の皆様から愛される施設を目指した理念を掲げ、その意識を職員間でしっかりと共有させている。具体的には、市民清掃や公民館行事等に積極的に参加して、理念を実践している。	
			(外部評価) 施設長は、「理念は、作り直すことに意義がある」と考えておられ、ユニットリーダーが代わるごとに、運営方針をもとに各ユニット職員で話し合い、「ユニット理念」を作成されている。ユニット理念は、「その人らしい生活を送れるよう支援」することや「地域に愛され、信頼される施設を目指す」こと等を掲げておられ、職員は自分達で作った理念の実現に向けて、取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 琴や折り紙の先生を定期的に招き、利用者にレクリエーションとして楽しんでもらっている。また、しめ縄作り等地域行事にも参加し、地域との交流を大切にしている。さらに、散髪は近くの理容院へ出かけ、外出できない利用者には出張してもらっている。	
			(外部評価) 秋祭りには、神輿や獅子舞が事業所に来てくれて利用者の楽しみになっている。近所の方が、畑で採れた野菜等をおすそわけしてくださったり、年末に事業所の敷地内で餅つきをしていると、地域の方が、顔を出してくださったりする。町内の「市民大清掃」や「総会」にも職員は参加されており、高齢化が進んでいる地域でもあることから、特に男性職員は地域に頼られているようだ。地域の方から、「代議委員をしてほしい」との要望があり、引き受けられた。	事業所は、「地域の皆様から愛される施設」を目指しておられ、又、職員は、地域の方達と交流する機会もあることから、今後は、地域の方達に事業所に足を運んでもらえるような機会作り等にも取り組まれ、利用者のことも知ってもらえるよう、取り組まれてはどうだろうか。さらには、災害時等、いざという時協力し合えるような関係作りに向けても、取り組みをすすめていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会、院長の医療講話等を通じて、ご家族や同業者に当事業所の普段の活動や、生活が改善された利用者の経過報告等を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にご家族や同業者を招き、事業報告や行事の報告を行い、積極的に意見交換を行っている。	
			(外部評価) 併設の小規模多機能事業所と合同で会議を開催されており、民生委員、前公民館長、前校長や地域の方、ご家族、他事業所の職員も参加して下さっている。会議の案内状は、すべての家族・地域の方を含めて、毎回100通ほどの方に郵送されている。参加することを迷っているご家族には、議題等を伝えて関心を持っていただき、足を運んでいただけるよう働きかけておられる。会議では、毎回、医師である法人理事長が、家庭で役立つ「医療講話」を行っておられる。2月の会議では、「熱・血圧・脈の見方」についてお話をされた。又、事業所での行事の様子や日々行っておられるレクリエーションの様子等をスライドショーにして見ていただき、利用者の表情等も見てもらえるよう取り組まれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村でケアについて相談したり、研修や運営推進会議等を通じて、協力関係を築くようにしている。また、運営推進会議には民生委員にも参加してもらい、意見交換を行っている。	
			(外部評価) 市の担当者や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加して下さっており、利用者の日常の様子のスライドショーをみて、「屋外でのレクは、利用者の気分転換になるのいい」と、感想を話して下さったり、「近所との連携を図るように」と、火災等、もしもの時のための体制作りについて、アドバイス等もいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は、緊急やむを得ない場合のみとし、その判断は職員個人で判断するのではなく、施設全体で判断し、利用者本人やご家族に対して十分に説明し、理解を頂くように努めている。	
			(外部評価) 事業所で持続的な点滴治療を行なっている利用者もあり、以前は、治療上やむをえない場合に限り、ミトン等を使用することもあったが、前回の外部評価を受け、「拘束0」に向けて取り組まれた。居間で、職員や利用者と一緒に過ごす時間を多く作ったり、レクリエーションにも参加できるよう取り組み、又、職員の見守りを充実させて、現在、身体拘束をせずケアでカバーされている。施設長は、「玄関の鍵をかけることも拘束である」と職員に話しておられ、現在は、職員の手が足りないような時や利用者が落ち着かないような時には、各ユニットの出入り口には、一時的に施錠することもある。事業所では「日中施錠することのないようケアの工夫について話し合いたい」と話しておられた。今後さらに、利用者の立場に立ち、自由で安全に生活できるような環境作りについて、話し合いを重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の自由や快適に暮らす権利を侵害しないように、利用者第一の考えを職員に浸透させるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に積極的に参加している。また、勉強会を定期的に関く等で理解を深められるよう努力している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、担当職員が不明な点がないように丁寧に説明し、納得して頂いた上で契約の締結等を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等で日々の生活支援の様子を伝達し、意見交換の場を積極的に設けている。そこで頂いた意見を検討し、事業所のケアサービスの質の向上に努めている。 (外部評価) 事業所では、しばらくお休みされていた「事業所便り」を、1月に再び発行されたところ、ご家族に喜ばれたことを受けて、今後も定期的に発行することを計画されていた。定期的に来訪されるご家族の方が連絡帳を作られて、「職員が気付いたことを書いておいてほしい」と希望があり、職員とご家族のやり取りをされているケースもある。又、今後は、「お便り」とともに、利用者個別に、日常の様子等を手紙にして同封し、ご家族により詳細な報告ができるよう、取り組みたいと考えておられた。	事業所では、運営推進会議にご家族の参加を増やしたり、家族会の再開も検討されている。事業所からの情報発信と一緒に活動できるような取り組みを工夫して、ご家族と一緒に利用者を支えていかれてほしい。利用する側であるご家族のケアサービスへの希望や要望を引き出せるような取り組みを重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員一人ひとりの意見を日々の申し送り等で聞き、アイデアを可能な限り繁栄させている。	
			(外部評価) 理事長や施設長の思いを現場に届ける役職を、昨年末から各ユニットに配置されており、職員からの意見や要望も聞き取り、つなぎ役をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給に際しては、賞与査定を行い、職員個々のモチベーション維持に努めている。また、定期的なユニット移動でマンネリ化を防いでいる。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のレベルアップを狙って、積極的に研修に参加させている。また、勉強会や日々の指導により、自己のレベルアップを感じさせ、向上心に繋げていけるよう工夫している。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議等で積極的に相互訪問の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新しく加わる利用者には、センター方式の評価表を使用し、シート(c)を事前に完成させている。また、事前に得た情報を職員間で共有させ、本人が不安のないよう生活を送れるように努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 個別の面談の際に、サービスを利用することになった経緯や、事情、利用者の状態や生活の様子をしっかりと聞いている。また、ご家族がもっている不安や要望についても十分に検討し、可能な限りサービスに組み入れるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの利用を開始する前に、本人の情報やご家族の要望についての話し合いを医師を含めて、看護師、介護職員らで行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の本人との会話や食事、レクリエーション等を通じて信頼関係を築けるよう努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や食事会を定期的に関き、ご家族が職員や本人とコミュニケーションをとれる時間を設けている。また、面会に来たご家族と可能な限り話をすることも努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人やご家族から要望があれば、可能な限り外出の機会を設けている。また、友人や知人から本人に電話があった場合は、職員が取り次ぎ、ゆっくり話ができるようサポートしている。また、面接については、家族以外の友人などの面会も受け入れている。 (外部評価) 併設の小規模多機能事業所を利用されている配偶者に会いに行くことを支援されたり、又、会いに来てもらえるよう声をかけておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりに気を配り、孤立する利用者がいないように気を付けている。また、レクリエーション等多数の利用者で楽しめる機会をつくり、利用者同士で関わり合う時間を増やすよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、ご家族の紹介により新たな入居者を迎えたり、良好な関係が継続できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時に本人の趣味等の情報や個別の生活仕様を聞きとり、本人の興味のあることや楽しめる活動が行えるよう努めている。 (外部評価) 利用者の状態に応じて、「生活リズム・パターンシート」や「24時間生活変化シート」を利用して、ご本人の生活リズムを探り、ご本人の自然なリズムを保った支援ができるよう取り組まれている事例もある。事業所ではこれまで、利用者の思いや希望を聴く機会が少なかったことに気付かれて、「昔話、興味のある話を引き出す工夫をする」ことを介護計画に採り入れているケースもみられた。	今後さらに、利用者個々の「その人らしい生活を送れるよう支援」の実践に向けて、日々の中でいろいろな場面作りに取り組む、利用者個々の行ってみたい場所、会いたい人、食べたいもの等を探って支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族から、これまでの暮らしについての情報を収集し、個人ファイルやカードックスを利用し、全職員が情報を把握できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の対話やバイタル測定等で本人の心身状態を把握するよう努めている。また、普段と変わったところがあれば必ず記録をとり、情報を職員間で共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人の状態を考慮し、職員で話し合って介護計画を作成している。また、介護計画は最低でも3か月毎、または本人の状態が変わる度に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月、モニタリングを行い、計画の見直しにつなげておられる。ご家族の意向等は、来訪時や電話にてお聞きして反映に努めておられる。利用者には、医療を必要とする方が多く、「サービス担当者会議」には、主治医である理事長や看護師も参加されている。計画は、大きく医療面と生活面の2つの視点から作成されており、「前のように歩けるようになりたい」と、希望される利用者の方には、ご自分の力で老人車を押しながら歩くことができるような支援に取り組まれている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子から気づきがあれば、その都度必ず記録をとり、職員間の情報の共有や介護計画の見直しに役立てている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 必要に応じて、グループホームだけでなく、他のサービスの利用が出来るように支援している。また、日中はデイサービス並みのバリエーションに富んだレクリエーションを毎日行うよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 本人の心身の力を発揮できるような外出等の機会を設け、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医が毎日往診を行い、症状の変化に的確に対応し、急変時にも主治医、職員の素早い対応、的確な処置により、健康管理に努めている。	
			(外部評価) 事業所では、利用説明時、法人医療機関を主治医とすることをご家族に説明して納得をいただいている。法人理事長は、毎日往診に来られており、検査等が必要な場合は、職員が同行して診療所に行くようにされている。法人理事長が他科受診の必要があると判断された場合は、ご家族に説明し、紹介状を持って職員が付き添って受診されている。ご家族より、他医療機関受診の希望があった場合は、ご家族が付き添われている。協力歯科医が、週1度訪問していただき、治療や口腔清掃の指導等をしてくださっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間看護師が勤務し、日々の看護師間での申し送り等で利用者の情報を共有し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療機関と連携を取り、相談や情報交換等を行い、早期退院に努めている。また、退院後も継続して療養できる環境人員を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終身介護を前提としており、看取りも数多く行っている。その際は、主治医が早い段階から、本人、ご家族に対し、十分に説明し、最善の医療が行えるよう努めている。また、当初より医療行為に支えられた看取りを希望する利用者を積極的に受け入れている。	
			(外部評価) ご家族は、事業所を「最期まで居られる場所」として、利用を希望される方がほとんどである。入居時に口から「食べられなくなった時どうするか」ということについて、選択肢を挙げて説明し、時期が来た場合にはご家族に決めていただくように伝えている。ご本人も交えて説明をされるが、「家族に任せる」と言う利用者が多いようである。身体の状態変化時には、医師である法人理事長から直接ご家族に連絡して、今後の治療方針やケア等について話し合っておられる。ご家族が持続点滴を希望され、事業所で医療面、ケア面に対応し、看取られた方もある。事業所は、ご家族が悔いの残らないよう支援することを大切に考えておられ、頻りに面会に来ていただけるよう、ご家族に話しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会等を開き、医師や看護師にも参加してもらい、職員に対し指導している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力を得て、避難訓練を行い、全職員が災害時に対応できるよう努めている。	
			(外部評価) 前年度は、避難訓練の実施に至らなかったことから、今年度は11月、1月と消防署の協力を得て、火災を想定した避難訓練を実施された。夜間想定での避難訓練時には、毛布やシーツを使って利用者を避難させる方法等についても勉強された。11月の訓練では、起震車を体験され、職員自身が「机の下に身を隠すことも難しい」と感じられたようだ。繰り返し訓練を行うことの大切さを感じられ、今後3月にも、夜間想定での火災による避難訓練を予定されていた。施設長は「年に3回は実施していきたい」と話しておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの利用者に対し、「〇〇さん」という呼び方を徹底し、常に人生の先輩であるという目で丁寧に声かけを行い、人格尊重を心掛けている。	
			(外部評価) 食事介助を必要とする利用者には、器の中をお見せしながら食事の内容を伝えておられる。又、時間をかけてご自分で食べる利用者には、焦らせることのないようにかかわることに気を付けておられた。栄養を経管摂取されている利用者の方も食卓をともにされ、職員とアイコンタクト等でコミュニケーションされていた。時には、棒付きの飴を召し上がられることもあるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 買い物や外出など、本人の要望は可能な限り実現させられるよう努めている。また、自由に過ごせる時間を多くとり、その時間は本人の望む過ごし方を優先している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの要望をしっかりと傾聴し、その人らしい生活のペースが保てるよう可能な限り支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人やご家族が用意してくれた衣類から、季節や天候に合った服を選ぶようにしている。また、本人が理容、美容を希望した場合は日程等を調整し、希望を叶えられるよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の材料を使ったり、年中行事に合わせた献立を考えるなど、利用者の飽きがこないよう工夫している。また、洗い終わった食器をふきんで拭いてもらう等、利用者の状態に合わせて、利用者と職員と一緒に片づけ等を行っている。	
			(外部評価) 食事は、併設する小規模多機能事業所と合同で、主に調理師が併設の小規模多機能の厨房で調理をされている。ユニットごとの台所では、盛り付けや配膳、食器洗い等をされている。事業所では、献立に野菜を多く採り入れ、一日のカロリーが1600カロリー程度になるように、調理師が施設長と相談しながらメニューを考えておられる。調査訪問時の昼食の際、職員が「〇〇さんの好きな散らし寿司ですね」と声をかけると、にっこり笑って箸を運ぶ利用者の様子がみられた。職員も利用者とともに食卓を囲み、同じものを食べながら、介助等をされていた。持続点滴をされている方は、ミキサー食の食事を摂っておられ、口からの食事だけに切り替えられるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材は全て一般小売店の店頭と並ぶ、新鮮な旬の食材を使い、加工食品は極力控えている。また、調理師によって上記食材を下ごしらえから行い、栄養バランスの良い料理を提供している。嫌いな食材については代用品を用意している。また、水分量、食事は毎食必ず記録し、ケアに生かしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 全利用者に1日3回必ず口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保持するよう努めている。また、食事のできない利用者ほど口腔ケアが大切になるので、食べない利用者も1日3回ガーゼで口腔内を拭いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々のトイレの回数、時間は記録をとり、排泄パターンを把握するよう努めている。また、利用者の自立度を職員間で共有し、身体的な安全に考慮している。 (外部評価) 利用者の尿意や便意のサインを見逃さず声かけや誘導して、トイレで排泄できるよう支援されている。布パンツで自立されている方やパッド等を使用されていても、汚されることはほとんどないようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事には極力野菜類を多くするよう配慮し、利用者一人ひとりの排便の回数、水分量、食事量を必ず記録している。排便のない日が続いた利用者には主治医の指示で緩下剤を使用する等、便秘の予防に努めている。また、毎日のレクリエーションにて、運動を行うことにより、更に排便を促進している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の健康状態や気分を考慮し、体調の優れない場合や、拒否の強い場合には入浴を無理強いないようにしている。また、一番風呂を希望する利用者もおり、なるべく希望を叶えられるよう配慮している。また、出来るだけ頻回に入浴できるよう努めている。 (外部評価) 以前は、基本的に週2回の入浴とされていたが、回数が少ないのではないかとことに気付き、現在は週3回入浴できるよう取り組まれている。午前中が入浴時間となっており、現在は、その他の時間帯の希望はないようである。利用者の持病や体調等の状態を考慮した結果、シャワー浴のみの方も少なくないようである。持続点滴を行っている利用者の方は、週3回の清拭と毎日の足浴を支援されている。	利用者個々の入浴の習慣や好み・希望等の情報収集に努められ、利用者主体の入浴支援に努めていかれてほしい。ご自分の力で楽しむことがし難いような介護度重度の利用者の入浴支援についても、ご本人がリラックスしたり楽しめるような支援の工夫はできないだろうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 季節や気温を配慮した環境を整え、利用者一人ひとりが快適に過ごすことのできるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を各利用者のファイルに保管し、いつでも用法、用量、副作用等が確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各利用者の趣味や特技を職員間で情報共有し、レクリエーションで可能な限り行うように支援している。また、レクリエーションもワンパターンに陥らないよう内容も日々工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日施設内に籠らせるのではなく、天候や利用者の体調等を考慮し、施設周辺の散歩やイベント等なるべく外出の機会を増やすよう支援している。	利用者一人ひとりの外出の希望について探っていくような取り組みも期待される。買い物や外食、懐かしい場所や思い出の場所等に出かけてみるような機会作りにも、取り組んでみてはどうだろうか。利用者一人ひとりの希望を引き出してご本人の意欲につながるような支援に努力していかれてほしい。
			(外部評価) 時には、近くの公園まで散歩に出かけることもある。座位を借りることが難しく、リクライニングの車椅子を使用されている方も、敷地内に出て、気分転換していただけるよう支援に努めておられる。車で出かける時は「車椅子で行ける場所」を職員で選ぶようにされており、動物園や梅津寺等に出かけたこともある。4月には、桜の花見を予定されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金は、利用者の居室ではなく、事務室で保管している。買い物等で現金が必要な場合は、その都度お渡しして、本人の希望時に使えるよう考慮し、職員が代わりに煙草や食品を買いに行くこともある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を職員と一緒に書く等、利用者のご家族が連絡を取り合えるよう支援している。また、本人に電話があった場合は職員が取り次ぎ、ゆっくり話ができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 室温を空調で管理し、季節に合った室温にしている。冬は床暖房にて快適な温度設定にしている。また、掃除を毎日行い、清潔で、利用者が快適に過ごせる共有空間づくりを心掛けている。また、季節にあった草花を室内外に栽培したり、取り入れて利用者と共に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所では、お天気のいい日は敷地内に出てレクリエーションを行い、利用者が外の空気にふれることができるよう支援されている。時にはホットプレートを持ち出しておやつを作り、お茶を楽しめることもある。事業所は、居間には、テレビを置かず会話等を楽しめるよう支援されている。又、ユニット毎に新聞を取っておられ、野球のお好きな方は、新聞の試合結果を見ながら、職員と語られるようだ。午後からのレクリエーションは、片方のユニットに集まり風船バレー等を楽しまれており、調査訪問時には、にぎやかな笑い声等が聞こえてきた。居間の一角に、一段高した畳コーナーが造られているが、現在は、利用者の状態のこともあり、ほとんど利用されておられず、今後、利用者と一緒に活用方法を検討したいと考えておられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者それぞれに個室を設けており、本人やご家族の希望する個室にはテレビを設置するなど、一人ひとりが自分らしい過ごし方ができるよう考慮している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者それぞれの個室には、ご家族の写真や、レクリエーションで作った作品、誕生日に職員からプレゼントした色紙を飾る等、殺風景な空間にならないよう努めている。</p> <p>(外部評価) おしゃれがお好きな方は、服を見えるところに掛けておられたり、花瓶に観葉植物を挿して、毎日ご自分で水を取り替える方もいる。持続的に酸素吸入を必要とされている方は、外出用の携帯酸素ボンベが用意されてあった。入居時、テレビを持ち込まれていない方も、ご本人から「テレビが見たい」と希望があれば、ご家族に伝えて、持って来ていただいている。調査当日は、良いお天気でもあり、窓を開けて換気している居室もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレ、居室、廊下等に手すりを設置したり、自分の部屋を認識しづらい利用者には必ず職員が付き添って部屋へ移動する等、安全に配慮し、利用者が安心して暮らせるよう努めている。</p>	